

科目名	生活と経済 Economics	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松葉 敬文	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	基礎的な経済学を学ぶことにより、生活に関わる様々な経済の仕組みを理解できるようになること、また身近な経済問題について考察し、日常の選択について自ら考えることができるようになることを目指します。学生が自身が社会に貢献することの意義を知り、自らのライフイベントにおけるお金の問題を理解し、その対処を考えより良い選択が行えるようになることを目的とします。「生活と経済」を学ぶことにより、社会に貢献する意義について理解し、また自らの選択を見直しつつ将来にわたる経済的な設計を考え、説明できるようになることを到達目標とします。		
授業概要	経済の問題と聞くと難しいと身構えてしまう方も多いのではないでしょうか。しかし、日々の生活において金銭を支払うことける支出を出費を行うこと、例えば「おやつ」を食べるかどうか、そしてどんな「おやつ」を食べるのかという問題も経済問題の一種です。また、収入を得る様々な手段（働いて給与を得る、事業を営む、あるいは配当金や家賃収入を得るなど）や、クレジットカードの利用・住宅ローンの選択なども経済の問題なのです。社会における価値の創造から自分の財産形成など、収入と支出に関わる問題への対処を学び、身近な話題から「経済」について理解しましょう。 【SDGs：1, 4, 8, 9】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① はじめに一オリエンテーション ② 経済の指標の取り方 ③ 価値と市場について—GDPの基礎概念 ④ 生産活動と所得 —「分け前」の獲得 ⑤ 誰がお金を使ったか？—消費と企業活動 ⑥ 市場の均衡と景気 ⑦ 資産とは何か—ポートフォリオ・セレクション ⑧ お金の「価格」とは何か ⑨ 消費者の満足とは—効用水準 ⑩ 自分にとっての価値（主観的価値と客観的価値） ⑪ 何を買うのか？—消費の選択 ⑫ 満場一致が望ましい—パレートの意味での効率性 ⑬ 企業活動—利潤と費用 ⑭ クレジットカードの意味—支出と所得と時間の関係 ⑮ 異時点間の消費選択—住宅ローンに代表される借り入れの問題 ⑯ 定期試験—記述式 		
予復習等	【予習】 諸種の情報媒体を利用し、直近の経済事情に興味を持ち、背景を調査すること。 【復習】 提示したスライドや配布資料における疑問点について調べ、理解を深めること。		
評価方法	出席状況・受講態度40%、定期試験60%		
履修条件	各回のテーマに興味を持ち講義に臨むこと。		
教科書	書籍は指定せず、適宜資料を配付する（プリント、簡略化したスライド資料）。		
参考書	講義中に適宜参考資料を紹介するが、購入を要するものではない。		

科目名	生活と福祉 Social Welfare	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	天池 洋介	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	・北欧デザインなど日本にある身近なものに興味・関心を持ち、主体性を持って北欧の文化とその背後にある福祉の考え方を幅広く学び、理解することができる。 ・福祉の現場における具体的なサービスと、それを支える社会政策を学び、福祉国家とはどういうものかを、自分なりにイメージすることができる。 ・最終的に北欧の事例を理解することで、日本の現状を検討し、日本における問題の解決方法を、自分なりに考えることができる。		
授業概要	【担当者の実務経験：公的機関の生活・福祉電話相談員の経験あり】 近年、スウェーデンのIKEA、フィンランドのMarimekko、デンマークのFlying Tiger Copenhagenなどの北欧デザインやその製品が注目されています。本講義はこのような北欧デザインや北欧の文化を通じて、北欧の豊かな生活と高い水準の福祉について学びます。 また、世界の最先端と言われる福祉のシステムや経済、政治のあり方から、人々の生活と幸せを支える国の姿＝福祉国家について実践的に学びます。最終的に北欧の姿を鏡にして、日本の現状と課題を考えます。 本講義は実物や映像を見ながら、調べ学習や体験も交えて学ぶアクティブ・ラーニング型の講義です。自ら考え、学ぶことを楽しみ、積極的に参加することを期待しています。 【SDGs：1, 3, 4, 5, 8, 9, 10, 16, 17】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 日本の中の北欧を探す ② 北欧デザインから幸せの支援を考える ③ 映像で見る福祉国家の生活 ④ 誰もが安心して暮らせる普遍主義 ⑤ 福祉の先進地域・北欧5カ国を知る ⑥ 英語と似ている北欧の言葉 ⑦ 本当の教育を考える ⑧ 現場重視の福祉制度 ⑨ 家事や育児を分担する家庭と社会 ⑩ 話し合いで社会環境を変える精神科医療 ⑪ 世界でもっとも人道的な刑務制度 ⑫ 北欧を揺るがす移民問題 ⑬ 人を助ける経済のしくみ ⑭ 社会をコントロールする政治の力 ⑮ 日本で幸せを支えるために ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】 授業終了時に、次回の予習となるような宿題を出します。 【復習】 授業の振り返りをするために、ノートを読み返してもらいます。		
評価方法	宿題・授業課題45%、定期試験55%		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	その都度指示する		

科目名	課題創造演習 Problem Finding and Program Creating	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）〔岐阜学関連科目〕	科目区分	演習
担当者	臼井 直之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本演習では、これまでの正しさの論理をめぐり、分野の垣根を超えながら知識を共有し、それを発展的に展開していく能力を養う。具体的には、以下の3つを身につけることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変化する社会に潜む課題の発見 2. 分野を横断した議論の方法 3. 正解の無い問いに対処する方法 		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：公共施設の設計及び監理の実務経験がある教員が担当する】 これまでは、与えられた課題を解決する力を備えた人材が重宝されてきた。そのため、解決策を学ぶことや、そのためのスキルを覚えることが、大切だと思われてきた。しかし、近年、社会情勢はこれまで以上の加速で変化し、さらに多様化している。そのため、これまで正しいと思われてきた論理にて意思決定をしていては、人々の幸福につながらないケースが発生すると考えられる。本演習では、前半で議論・促進・抽出の方法を学んだのち、受講者によるグループワークやディスカッションを行い、正解の無い問いに対する対処方法および表現方法を学ぶ。 【SDGs：11】 【岐阜学関連の授業回：全授業】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 多様な社会課題 ③ 議論・促進・抽出の方法 ④ ディスカッション（課題抽出） ⑤ 文献調査 ⑥ ディスカッション（課題抽出） ⑦ ディスカッション（調査計画） ⑧ 現地調査 ⑨ 現地調査 ⑩ 調査結果発表 ⑪ ディスカッション（表現方法） ⑫ 制作（Adobe、パワーポイント） ⑬ 制作（作業） ⑭ 制作（作業） ⑮ 成果発表 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】本演習の第一回目までに、参考書を一読しておくこと。 参考書にはマンガ版を示したが、同様のタイトルの新書版でも良い。 【復習】授業の内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	<p>【自科学生の場合】出席状況・授業態度50%、課題50% 【他科学生の場合】出席状況・授業態度50%、課題50%</p>		
履修条件	集中講義であるため、開講時期に注意すること。現地調査など、学外へ移動することがある。		
教科書	適宜プリントを配布する。		
参考書	『マンガと図解でわかる 世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』/山口周 / 出版：光文社		

科目名	岐阜学入門 Gifu Studies	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	オムニバス	教員区分	学内教員/非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>【授業目的】 ・岐阜をフィールドにした学びを通して岐阜の歴史・文化・現状を知る。 ・岐阜地域の抱える様々な課題に関連する情報をリサーチし、考える。 ・リサーチと並行して課題を解決する能力を高め、仮説を提案する。 【到達目標】 ・岐阜地域の歴史・文化・現状を理解し、自分の言葉で簡潔に説明することができる。 ・岐阜地域の課題を見つけ、課題解決に向けて情報収集することができる。 ・情報を整理し、問題と解決策の構造を把握し説明することができる。 ・岐阜市および岐阜地域の課題解決に向けた取り組み（仮説）を提言することができる。</p>		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：授業計画の①、④、⑦、⑧、⑪、⑫、⑬、⑭の各テーマについて現役または勤務経験のある学外講師が担当】 毎回異なる学内外の専門家が担当するオムニバス形式の講義を受講し、岐阜の「歴史・文化」と「現状」について学ぶ。実務経験者が担当する回は、最新の現状や現場の実体験をもとに授業を行う（開講順は変更する可能性がある）。最終回には、受講した講義内容から各自が取り組みたいトピック（テーマ）を設定し、よりよい岐阜市および岐阜地域になるための提案書「岐阜市の未来社会を創造する」に取り組む。 【SDGs：3, 4, 11】 【岐阜学関連の授業回：全授業回】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス及びデザイン思考 【担当：副学長・岐阜大学 教員】 ② 岐阜と食文化① 【担当：健康栄養学科 教員】 ③ 岐阜と食文化② 【担当：健康栄養学科 教員】 ④ 岐阜の農作物・畜産物 【担当：岐阜県農政部 農産物流通課】 ⑤ 岐阜の観光①（地域文化の活性化） 【担当：国際コミュニケーション学科 教員】 ⑥ 岐阜ゆかりの日本文学作品 【担当：国際コミュニケーション学科 教員】 ⑦ 岐阜市における国際化の現状 【岐阜市 魅力づくり推進部 国際課】 ⑧ 岐阜の観光②（岐阜のもてなし） 【岐阜市 魅力づくり推進部 観光コンベンション課】 ⑨ 岐阜の地域の産業と暮らし①（ファッション産業） 【担当：デザイン環境学科 教員】 ⑩ 岐阜の地域の産業と暮らし②（土育・木育） 【担当：デザイン環境学科 教員】 ⑪ 岐阜の地域の産業と暮らし③（アントレプレナーシップ） 【担当：武蔵野大学 アントレプレナーシップ 研究所】 ⑫ 岐阜市の公共交通について 【岐阜市 都市建設部 交通政策課】 ⑬ 岐阜とジェンダー 【担当：岐阜県 健康福祉部 子ども・女性局 子ども家庭課】 ⑭ 岐阜における環境共生 【担当：岐阜市 環境部 環境保全課】 ⑮ サステイナブルな繊維とプラスチックの話 【担当：学長】 <p>（講義テーマの詳細は、ガイダンスまたは各講義で伝える）</p>		
予復習等	<p>【予習】各回のテーマについての概要や現状を調査しておくこと。 【復習】配布資料を読み、疑問点は調べて理解を深めること。期限内に課題を提出すること。</p>		
評価方法	出席状況・受講態度、各講義の課題提出、提案書等を総合評価する（詳細はガイダンスで伝える）。		
履修条件	真摯な受講態度で授業に臨むこと。私語は厳禁とする。		
教科書	なし。		
参考書	参考資料は適宜配布する。		

科目名	生活と化学 Chemistry	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年後期）	科目区分	講義
担当者	小野 廣紀	教員区分	校内教員
授業目的 到達目標	化学の基礎的な考え方や概念を理解する。具体的には、有効数字やSI単位について理解し、簡単な計算問題が解けるようになる。また、紫外線や食品の話題から、エネルギーの意味について考える。食品に含まれる代表的な有機化合物や無機化合物の構造や性質についても理解する。		
授業概要	日常生活の中で、私たちの身のまわりにあるものは、すべて化学とかがわりがある。化学が普段の暮らしにどれだけ役立っているかを身のまわりにあるものを通して、わかりやすく解説してみたい。 たとえ高校で、化学を学んでいなくても理解できるように配慮し、なるべく身近な事例、たとえば、食品や生体に含まれる成分などを題材に取り上げ、生活と化学とのかかわりについて考えてみたい。 【SDGs：3,4】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 元素と元素記号 ③ 物質の測定 ④ 紫外線① ⑤ 紫外線② ⑥ カロリー（エネルギー） ⑦ ダイエット① ⑧ ダイエット② ⑨ ダイエット③ ⑩ 身のまわりの酸と塩基 ⑪ アルコール① ⑫ アルコール② ⑬ 食品中の有機化合物 ⑭ 食品中の無機化合物 ⑮ まとめ ⑯ 定期試験 		
予復習等	【予習】事前にテキストの該当する章をしっかりと読んでくる。 【復習】ノートに整理し、理解する。		
評価方法	定期試験100%		
履修条件	なし		
教科書	『わかる化学』／著：松井徳光ほか／出版：化学同人		
参考書	なし		

科目名	心理学 Psychology	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）	科目区分	講義
担当者	吉田 琢哉	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	身近な対人関係の問題を主な題材として、学生が心理学的な考え方やものの見方を身につけることを目標とする。具体的には、学生が以下の事例について説明できるようになることを目的とする。 （1）心理学の成り立ち （2）人の感覚・知覚、記憶、学習、感情などの基本的なしくみ及び働き （3）社会、教育および発達心理学の領域における人の心の捉え方		
授業概要	心理学は心の問題を中心的に扱う学問である。ただし、心をどのようにとらえるかは、同じ心理学でも領域によってさまざまである。そこで本授業は、心理学でのさまざまな“心の見方”を概観しながら、人の心についての理解を深めることを目指す。具体的には、社会心理学・教育心理学・発達心理学の分野を中心的に学ぶ。そして心理学における基礎知識やものの考え方を身につけることを目標とする。 【SDGs：3,16】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション・心理学とは ② 他者を見る心 ③ 他者と比べる心 ④ 他者を好きになる心 ⑤ 親密な人間関係 ⑥ 他者から受ける影響 ⑦ 買い物の心理 ⑧ 人の発達 ⑨ コミュニケーションの技術 ⑩ 相手を説得する ⑪ 他者との協力 ⑫ 記憶のメカニズム ⑬ 学習のメカニズム ⑭ 犯罪の心理（1）犯罪とは何か ⑮ 犯罪の心理（2）身近な人への暴力 		
予復習等	【予習】事前に資料を精読しておくこと。 【復習】講義内容を復習しながら小レポートに取り組むこと。		
評価方法	授業中に課す小課題への取り組み30%、毎回のレポート課題70%（5点×14回）。小課題は6回の未提出で不可とする。		
履修条件	なし。		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし。		

科目名	ジェンダー論 Gender Studies	単位数	2
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）	科目区分	講義
担当者	中島 美幸	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	<p>学生が「ジェンダー」について学び、以下の4点を獲得することを目標とする。</p> <p>①無意識の偏見に気付き、ジェンダーセンシティブな視点を持つことができる。 ②多様性を理解し、自己決定する能力を高めることができる。 ③将来のライフデザインを、より明確に描くことができる。 ④生きる力を高め、社会に対し主体的に働きかけることができる。</p>		
授業概要	<p>多様な選択が可能になったといわれる現代であるが、「男は仕事/女は家事」「男は強く/女は優しく」など、社会は男女で異なる役割を期待し、また多くの人々も、それを当たり前と思いついてきた。このように、社会や文化が作り出した性差をジェンダーと言う。</p> <p>この授業では、ジェンダーを作り出し、再生産している社会や文化の構造を明らかにするとともに、どのようにしたらジェンダーの縛りから自由になれるかを考える。</p> <p>そのために、過去の女性の生活や活動を知るとともに、現代の女性をとりまく様々な問題を考察する。そして、差別が解消された社会を展望する。 【SDGs：1, 2, 3, 4, 5, 8, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 多様性とエンパワメント ② 50年後の日本を見据えて ③ 男女をめぐる国際比較 ④ 男女ともに働きやすい社会に ⑤ 恋愛・結婚・家族とジェンダー ⑥ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ⑦ 母になる、父になる、ということ ⑧ 性別分業の起源と歴史①世界 ⑨ 性別分業の起源と歴史②日本 ⑩ 女性解放運動の歴史～フェミニズム ⑪ 作られる「女らしさ」「男らしさ」 ⑫ 「男らしさ」からの解放 ⑬ 暴力の根絶 ⑭ 日本の課題～法律・制度・慣習 ⑮ 平等な社会を求めて～世界と日本の今 		
予復習等	<p>【予習】新聞、雑誌、インターネットなどで、男女に関するテーマに関心を向けること。 【復習】授業後に、確認テストに答え、小レポートを作成すること。</p>		
評価方法	毎回の、「確認テスト」(50%)と、「小レポート(授業の感想)」(50%)で評価する。		
履修条件	なし		
教科書	なし。プリントを配布する。		
参考書	なし		

科目名	スポーツ&エクササイズ Sports and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際・デザイン（1年前期）／健康（1年後期）	科目区分	実技
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業では、生涯にわたって運動に親しもうとする意識が養われることを目的とします。そのために重要なこととして、楽しむこと、どのような運動が自分に合うかを知ることが、挙げられます。これらを達成するため、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しむ方法は多様であることを認識する ・楽しむためには参加者の様々な状況について相互理解と協力が重要であると認識する ・どのような運動が自分の好み、体力特性、得手不得手などに合っているかを認識する 		
授業概要	<p>授業では、楽しむことを最も重視して進めていきます。受講者は運動能力や体力の高い人からそれほど得意でない人まで様々ですので、そのことを考慮した難易度設定や雰囲気作りを行います。受講者には、自分自身はもちろん周囲の人達も楽しめるように意識することを求めます。</p> <p>スポーツや運動は、用いられる技術やゲームの特性、必要となる体力特性などによって、カテゴリ分けをすることができます。この授業では、それらの特性を偏らせることなく、様々な種目をカテゴリ毎に実施します。特定の種目の技術や体力を高めるタイプの授業ではなく、体験型の授業とします。様々な種目を体験することにより、自分自身に合うスポーツや運動のタイプを認識できるようになることを目指します。具体的な実施種目は、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布してお知らせします。【SDGs：3】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験(1) ③ 学内スポーツ施設体験(2) ④ チームスポーツ（攻守分離型）(1) ⑤ チームスポーツ（攻守分離型）(2) ⑥ ニュースポーツ(1) ⑦ ニュースポーツ(2) ⑧ チームスポーツ（攻守混合型）(1) ⑨ チームスポーツ（攻守混合型）(2) ⑩ チームスポーツ（攻守混合型）(3) ⑪ 個人スポーツ（ネット対戦型）(1) ⑫ 個人スポーツ（ネット対戦型）(2) ⑬ レクリエーションスポーツ(1) ⑭ レクリエーションスポーツ(2) ⑮ まとめ 		
予復習等	<p>【予習】実施種目の基本的なルール等を確認しておいてください。 【復習】メディア等で実施種目を視聴・観戦し、特性等を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況60%、授業態度40%		
履修条件	運動するのに適した服装をしてください。 シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	健康とスポーツ Health Science and Exercise	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康（1年前期）／国際・デザイン（1年後期）	科目区分	演習・講義
担当者	佐野 真也	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>運動、栄養、休養は「健康の三本柱」であると言われます。この授業では、健康と運動の関連性を理解するとともに、生涯にわたり楽しんで運動を継続していく意識が養われることを目的とします。そのために、以下を授業の到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動が身体の健康状態に与える影響を理解する ・運動には多様な楽しみ方があることを認識する ・自分に合う運動のタイプを認識する。 		
授業概要	<p>この授業は、スポーツの実践と健康科学の講義を組み合わせ実施されます。スポーツの実践では、楽しむことを重視します。運動能力や体力レベルが様々な人達が集まって行われますので、受講者には、自分自身はもちろんのこと周囲の人達も楽しめるよう意識することを求めます。スポーツ実践においては更に、消費エネルギーの計算や心拍数の測定など、講義と関連づけた演習も行います。</p> <p>講義では、運動をする・しないことによって身体にどのような変化が起こり、健康状態にどのように影響するのか、ということについての基本事項を学びます。</p> <p>第2～6回はクラス単位で隔週実施、初回および第7～10回は学科単位で毎週実施します。実施順や具体的なスポーツ種目については、初回ガイダンス時に詳細な予定表を配布して説明します。【SDGs：3】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② 学内スポーツ施設体験 ③ チームスポーツ（攻守分離型） ④ ニュースポーツ ⑤ チームスポーツ（攻守混合型） ⑥ 個人スポーツ（ネット対戦型） ⑦ 講義「健康とは？運動しないとどうなる？」 ⑧ 講義「肥満と痩せとダイエット」 ⑨ 講義「身体活動量の目安、『健康』に関わる体力要素」 ⑩ 体力づくり実践 		
予復習等	<p>【予習】実施するスポーツ種目の基本的なルール等を確認しておいてください。</p> <p>【復習】講義で取り扱った内容について、書籍等で詳細を確認してください。</p>		
評価方法	受講状況・態度60%、レポート40%		
履修条件	スポーツ実践の際には、運動するのに適した服装をしてください。シューズは屋内、屋外それぞれに適したものを履いてください。		
教科書	なし		
参考書	なし		

科目名	情報リテラシー（国際） Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる ・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる ・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる ・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威)とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用手法を実践的に修得する。</p> <p>【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Word、Microsoft365 ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint(1)基礎/演習 ④ PowerPoint(2)発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel(1)データの種類、収集、前処理 ⑫ Excel(2)データの可視化(1) ⑬ Excel(3)データの可視化(2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2) 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。</p> <p>【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	情報リテラシー（健康） Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	長谷川 旭	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる ・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる ・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる ・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Word、Microsoft365 ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint(1)基礎/演習 ④ PowerPoint(2)発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel(1)データの種類の収集、前処理 ⑫ Excel(2)データの可視化(1) ⑬ Excel(3)データの可視化(2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2) 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	情報リテラシー（デザイン） Informatics Literacy	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報やコンピュータ、インターネットを使いこなせる ・コンピュータ、インターネットを通じて情報発信・情報共有できる ・データを適切に収集し、データ分析を行うことができる ・データに基づく客観的な判断・意思決定をするために必要な基礎的概念が理解できる 		
授業概要	<p>講義の1・2回目については、ガイダンスの期間に行う。ここでは、情報セキュリティや情報モラル（スマートフォンやSNS(Social Networking Service)など現代社会に欠かせないツールに必要な知識と脅威）とTeams、Word、Excel、PowerPointの基本的操作について学ぶ。その後、情報の基本的概念を理解した上で、コンピュータの原理と構成、インターネットの仕組みなどについて学ぶ。また、インターネットを安全かつ有意義に活用するための必要な情報倫理、情報セキュリティに関する知識を学ぶ。その後、データサイエンスの基礎的概念を理解し、データの収集、管理、可視化、分析を通じて、データの理解と活用手法を実践的に修得する。 【SDGs：4,9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① コンピュータの基本操作、タイピング、Word、Microsoft365 ② 本学の情報環境と注意事項、情報セキュリティ、情報倫理 ③ PowerPoint(1)基礎/演習 ④ PowerPoint(2)発表 ⑤ ITと社会、情報セキュリティ ⑥ 情報のデジタル表現、符号化、データ構造 ⑦ コミュニケーションと情報デザイン ⑧ ネットワークとインターネット ⑨ コンピュータとプログラミング ⑩ プログラミングとアルゴリズム ⑪ Excel(1)データの種類の収集、前処理 ⑫ Excel(2)データの可視化(1) ⑬ Excel(3)データの可視化(2) ⑭ 情報技術が社会に及ぼす影響(1) ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響(2) 		
予復習等	<p>【予習】ガイダンスや毎回授業中に指示する。 【復習】授業内容を振り返り、要点を整理すること。</p>		
評価方法	平常点15%、課題および授業内試験85%		
履修条件	なし。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	『教養としてのコンピュータサイエンス講義』、カーニハン著、日経BP社出版		

科目名	データサイエンス概論 Introduction to Data Science	単位数	2
		必選区分	必修
開講学科	国際・健康・デザイン（1年前期）	科目区分	講義
担当者	松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>人工知能(AI)やデジタルトランスフォーメーション(DX)、データサイエンスは、我々の生活の中に入りつつあり、今後、必要不可欠なツールになる。今後の社会を生きていくためには、AIやDX、データサイエンスを正しく理解し、使えるようにする必要がある。そこで、本講義では、AIやDX、データサイエンスの概略とデータを扱う上で必要な知識を学ぶ。</p> <p>本講義の到達目標は、現代社会におけるデータサイエンスの役割が説明できること、データ分析に関する基礎的な分析方法を身に着けること、そして、AIがどのような技術であるかを説明できること、である。</p>		
授業概要	<p>最初に、AIやDX、データサイエンスの出現によって起きた社会の変化やその重要性・必然性、国内外の科学技術政策について学ぶ。その後、AIやデータサイエンスのシステム、データ活用事例について学習する。次に、データやAIを取り扱ううえでの留意事項（データの収集方法やバイアスなど）・セキュリティについて学ぶ。ここでは、今後起こり得る社会的な問題についても学習する。続いて、実際のデータを用いて、データの読み方や分析手法について学ぶ。実際にデータを分析することで、学んだ知識の定着を行う。これによって、データリテラシーを身に着ける。最後に、AIやDX、データサイエンスの発展に伴う私たちの社会の変化と自分自身の将来について考えていく。</p> <p>【SDGs：4.9】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス、社会で起きている変化口 ② データサイエンスの重要性・必然性 ③ データが変える社会 ④ データ活用のプロセス ⑤ データ・AIが何に使えるか ⑥ データ活用事例に学ぶ（海外、国内、岐阜） ⑦ AIとは何か？ ⑧ AIの技術 ⑨ データ・AIにおける留意事項とセキュリティ ⑩ データの読み方 ⑪ データの説明 ⑫ データを扱う(1) ⑬ データを扱う(2) ⑭ データサイエンスとこれからの働き方 ⑮ データサイエンスと私たちの未来 ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を調べておくこと。</p> <p>【復習】 学んだ内容について再度資料をよく読む。</p>		
評価方法	授業内課題60%、定期試験40%		
履修条件	なし。		
教科書	なし。資料をTeams上で配布する。		
参考書	なし。		

科目名	英語 I（国際Aクラス） English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に、各自の英語運用能力の向上を目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。①比較的平易な英語での解説を聞き取れる、②正確な英文読解ができる、③自分の意見を英語で書いたり、発表できる、④海外事情を学び、理解する。</p>		
授業概要	<p>世界15か国の文化や歴史を紹介する映像教材を使用する。英語で紹介される海外事情を聞き取り理解するとともに、各国の地元の人々のインタビューを通してWorld Englishesと呼ばれる特徴のある様々な英語にも触れる。映像に加え、それぞれの国の情報記事を読み、正確に内容把握する。さらに、学修した海外情報に対して自分の意見を英語で発表する。</p> <p>定期試験の他、語彙、文法、リスニングなど小テストを行う。</p> <p>【SDGs：4, 10, 16, 17】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス ② Chapter 1 Australia ③ Chapter 2 Indonesia ④ Chapter 3 Singapore ⑤ Chapter 4 China ⑥ Chapter 5 Argentina ⑦ Chapter 6 Mexico ⑧ Review ⑨ Chapter 7 Germany ⑩ Chapter 8 Finland ⑪ Chapter 9 Poland ⑫ Chapter 10 Spain ⑬ Chapter 11 Greece ⑭ Chapter 12 Kenya ⑮ Chapter 13 Morocco ⑯ 定期試験 		
予復習等	<p>【予習】 指定された箇所 of 英文を読む。また、ダウンロード音声を使い、問題を解く。</p> <p>【復習】 新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。</p>		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	On Board for More World Adventures /著：Scott Berlin他 /出版：金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語 I (国際Bクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	国際コミュニケーションに必要なひとつの技能として英語力は欠かせない。本授業では、「読む・聞く・書く・話す」4技能について総合的に、各自の英語運用能力の向上を目指す。また、教材をとおして海外事情について理解する。到達目標は次の4点とする。①受講生は、比較的平易な英語での解説を聞き取れる、②正確な英文読解ができる、③自分の意見を英語で書いたり、発表できる、④外事情を学び、理解する。		
授業概要	この授業では、海外メディアが作成した映像 (2分程度)、およびリーディング用テキスト (250words) を用いて、リスニングとリーディングを中心に、英語の4技能を学ぶ。「変わった旅行体験」、「SNS世代と古着文化」、「発展途上国における出産」など、普段の生活ではあまり触れることのないトピックを扱う。さまざまな国のブームや問題に触れることで、グローバルな意識を高めながら、英語力の向上を目指す。それぞれのトピックに対する意見を簡単な英語で表現する機会も設ける。 【SDGs : 4, 5, 10】		
授業計画	① Guidance: Self-introduction ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ Unit 5 ⑦ Unit 6 ⑧ Unit 7 ⑨ Review ⑩ Unit 8 ⑪ Unit 9 ⑫ Unit 10 ⑬ Unit 11 ⑭ Unit 12 ⑮ Unit 13 ⑯ 定期試験		
予復習等	予習：指定されたテキストの授業範囲の単語などを調べておくこと。 復習：会話、聞き取り問題や読解問題で間違えた箇所について、その理由を確認しておくこと。		
評価方法	出席・態度：20%、小テスト：30%、定期試験：50%		
履修条件	なし		
教科書	『INTEGRITY Beginner』／著：佐々木顕彦ほか／金星堂		
参考書	なし。資料がある場合は適宜配布する。		

科目名	英語 I (健康Aクラス) English I	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	尾野 理音	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、総合的な英語運用能力の向上を目的とする。特に、基礎的な文法事項の定着と、英文読解を通じた語彙力の拡充を目指す。そのために、英語の基本的な思考や文の仕組みを学び、英文の読解を繰り返す行う。		
授業概要	Grammar Section と Reading Section に別れた教材を使用し、授業の各回で文法事項を学習した上で、英文読解を行う。文法学習では、新たに学習する内容の解説を聞いたあと、問題で確認を行う。英文読解では、新出の重要な語彙に注意しながら様々な英語に触れる。全体を通して、総合的な英語運用にとって重要な能力の向上を目指す。 【SDGs : 4, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Grammar Section Unit 1, Reading Section Unit 1 ③ Grammar Section Unit 2, Reading Section Unit 2 ④ Grammar Section Unit 3, Reading Section Unit 3 ⑤ Grammar Section Unit 4, Reading Section Unit 4 ⑥ Grammar Section Unit 5, Reading Section Unit 5 ⑦ Review (Grammar/Reading Unit 1-5) ⑧ 中間試験 ⑨ Grammar Section Unit 6, Reading Section Unit 6 ⑩ Grammar Section Unit 7, Reading Section Unit 7 ⑪ Grammar Section Unit 8, Reading Section Unit 8 ⑫ Grammar Section Unit 9, Reading Section Unit 9 ⑬ Grammar Section Unit 10, Reading Section Unit 10 ⑭ Grammar Section Unit 11-12 ⑮ Review (Grammar Unit 6-12, Reaging Unit 6-10) ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】 指定された箇所を読んでおく。 【復習】 授業後に、学習した文法事項や重要語句が定着するように復習する。		
評価方法	平常点(授業態度など)20%、小テスト30%、中間試験25%、期末試験25%		
履修条件	なし		
教科書	『Dear Class - Drop Everything And Read <Second Edition> 楽しい英語の世界へようこそ 【改定新版】』/ 著：永本義弘・町田純子・八木茂那子・霜田敦子・Ian E. Ellsworth / 出版：南雲堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅰ（健康Bクラス） English Ⅰ	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の目的は、英語コミュニケーション能力を養成するための基礎的な段階として日常の英会話の様々な場面において頻出する表現を確実に身につけることを目的とする。具体的には英会話で頻出する基本的な表現の読み、書き、話し、書くことができることである。		
授業概要	英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身につけることをねらいとする。テキストは大学生活において遭遇する友人との会話を取り上げた『Global Activator』を使用する。このテキストの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを旨とする。 【SDGs:4, 16, 17】		
授業計画	① Introduction ② Unit 1 College Life ③ Unit 2 Mobile Phones ④ Unit 3 Movies ⑤ Unit 4 Dating ⑥ Unit 5 International Food ⑦ Unit 6 World Englishes ⑧ Unit 7 Weekdays/Vacations ⑨ Unit 8 Music/Songs ⑩ Unit 9 Sports ⑪ Unit 10 Shopping ⑫ Unit 11 Traveling/Studying Overseas ⑬ Unit 12 Festivals/Parties ⑭ Unit 13 Part-time/Future Jobs ⑮ Review ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。【復習】会話、聞き取り問題や読解問題の復習をすること。		
評価方法	授業参加度、貢献度、発表、小テスト、課題その他 50%。定期試験50%。		
履修条件	なし		
教科書	『Global Activator』／著：塩沢正／出版：金星堂		
参考書	授業中に指示する。		

科目名	英語Ⅰ（デザインAクラス） English Ⅰ	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	松家 鮎美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	英語のリスニング・スピーキングを中心としたスキルを磨き、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。また、海外の文化について理解を深めると共に、世界中の、英語を母語としない人々のコミュニケーションについて触れ、英語発信の重要性について学ぶ。身近な話題や興味のある分野について、英語で発信することを目的とする。		
授業概要	【担当者の実務経験：①航空会社での国際線の乗務。②米国在住・現地テレビ局での勤務など。】 教科書を用いながら、Unit毎のテーマを理解し、英語の基礎的な力を身につける。リスニングについては、英語の強弱やリズムについて理解をする。また、ディクテーションやシャドーイングに挑戦することで、内容理解の正確性を高めることを目指す。スピーキングについては、ペア・グループワークを通し、学んだ表現を使えるよう実践する。 【SDGs：4, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス, Unit 1 Graduation just Around the Corner ② Unit 2 Smiling Faces ③ Unit 3 Farewell to Friends ④ Unit 4 Japanese as a Communication Tool ⑤ Unit 5 Pursuing a Dream in Southeast Asia ⑥ Unit 6 Sports Journalism in the US ⑦ Unit 7 Feeling Homesick ⑧ Unit 8 More Chinese Students Studying Abroad ⑨ Unit 9 Tapping New Resources ⑩ Unit 10 Becoming a Filmmaker ⑪ Unit 11 A Helicopter Pilot ⑫ Unit 12 Bicycling Anyone ⑬ Unit 13 Helping Immigrants Learn German ⑭ Unit 14 A Young and Ambitious Reporter ⑮ Unit 15 Off to New York ⑯ 定期試験		
予復習等	[予習]各Unitを読み、分からない単語を調べる。授業の事前課題を行う。 [復習]教科書付属のCDを聞きながら、英文を音読する。		
評価方法	【自科学生の場合】【他科学生の場合】 履修態度20%、パフォーマンス20%、定期試験60%		
履修条件	なし		
教科書	『Let's Talk with Friends Around the World! 世界の友と英語で話そう』著：行時潔他 / 出版：松柏社		
参考書	授業中に、適時指示をする。		

科目名	英語Ⅰ (デザインBクラス) English Ⅰ	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年前期)	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の目的は、英語コミュニケーション能力を養成するための基礎的な段階として日常の英会話の様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることを目的とする。具体的には英会話で頻出する基本的な表現の読み、書き、話し、書くことができることである。		
授業概要	英語コミュニケーション能力を養成する基礎的な段階として、日常の英会話において頻出する表現を身に付けることをねらいとする。テキストは大学生活において遭遇する友人との会話を取り上げた『Global Activator』を使用する。このテキストの学習を通じて、英語コミュニケーション能力はもちろん英文法、リーディング、ライティングの力も同時に養成することを目指す。 【SDGs:4, 16, 17】		
授業計画	① Introduction ② Unit 1 College Life ③ Unit 2 Mobile Phones ④ Unit 3 Movies ⑤ Unit 4 Dating ⑥ Unit 5 International Food ⑦ Unit 6 World Englishes ⑧ Unit 7 Weekdays/Vacations ⑨ Unit 8 Music/Songs ⑩ Unit 9 Sports ⑪ Unit 10 Shopping ⑫ Unit 11 Traveling/Studying Overseas ⑬ Unit 12 Festivals/Parties ⑭ Unit 13 Part-time/Future Jobs ⑮ Review ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。【復習】会話、聞き取り問題や読解問題の復習をすること。		
評価方法	授業参加度、貢献度、発表、小テスト、課題その他 50%。定期試験50%。		
履修条件	なし		
教科書	『Global Activator』／著：塩沢正／出版：金星堂		
参考書	授業中に指示する。		

科目名	英語Ⅱ (国際 英語領域) English Ⅱ	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	大澤 聡子	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	英語のリーディング力やリスニング能力を伸ばし、さらに英語で場面を要約する力や自分の考えを発表できる力を付けることを目的とする。到達目標は、1) 映画で使用される自然な英語を聞いて概ね理解することができる、2) テーマと関連する基礎的な英文を読み、理解することができる、3) 映画でよく使用される自然な表現を使って、コミュニケーションができる、4) 英語で自分の考えを表現できる、の4点である。		
授業概要	ビデオ・音声教材を使用し、アメリカの社会問題を扱った映画を題材に、英語のリーディング力やリスニング力を伸ばすとともに、英語の表現力を高める。また、語彙や文法力も高め、音読やシャドーイング練習にも力を入れる。映画の場面をペアで練習することで、英語のリズムを身に付ける。アメリカ社会に対する理解を深めるとともに、自国の社会についても再認識し、英語で場面要約する力や自分の考えを表現できる力を付ける。期末試験に加え、語彙や文法の小テストを行う。また、授業外多読課題を課す。 【SDGs : 3, 4, 5, 6, 11, 12, 15】		
授業計画	① ガイダンス ② Unit 2: Job Hunting (Reading) ③ Unit 3: Job Hunting (Audio-Visual Learning) ④ Unit 4: Discovery (Reading) ⑤ Unit 5: Discovery (Audio-Visual Learning) ⑥ Unit 6: Getting Ready for the Suit (Reading) ⑦ Unit 7: Getting Ready for the Suit (Audio-Visual Learning) ⑧ Review ⑨ Unit 8: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading) ⑩ Unit 9: Four-hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning) ⑪ Unit 10: Binding Arbitration (Reading) ⑫ Unit 11: Binding Arbitration (Audio-Visual Learning) ⑬ Unit 12: Settlement (Reading) ⑭ Unit 13: Settlement (Audio-Visual Learning) ⑮ Unit 14: The Real Erin (Extra Reading) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】各UnitのVocabulary Check, Vocabulary in Use, Sound Focus 【復習】新出語彙、重要語句、文法などをまとめる。		
評価方法	出席状況・授業態度 20%、小テスト20%、多読課題20%、期末試験40%		
履修条件	なし		
教科書	English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich /井村誠 他/金星堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅱ（国際 英語領域以外） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	大学生レベルの英語学習として、英語の基礎力強化とともに、国際問題・時事問題に関する英語表現・英単語のインプットを行い、世の中で起きていることについて英語で説明できるようになることを目指す。		
授業概要	<p>①英語基礎力強化のための演習を行う。文法、リーディング演習を授業の最初に行い、英語力の土台強化を行い、自学自習の習慣をつける。</p> <p>②指定のテキストを使い、国際問題・時事問題に関する英語表現・英単語のインプットを行う。世の中で起きていることについて英語で理解し、さらに説明できるようにしていく。</p> <p>【SDGs : 8, 9, 10】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション</p> <p>② Lesson 1</p> <p>③ Lesson 2</p> <p>④ Lesson 3</p> <p>⑤ Lesson 4</p> <p>⑥ Lesson 5</p> <p>⑦ Lesson 6</p> <p>⑧ Lesson 7</p> <p>⑨ Lesson 8</p> <p>⑩ Lesson 9</p> <p>⑪ Lesson 10</p> <p>⑫ Lesson 11</p> <p>⑬ Lesson 12</p> <p>⑭ Lesson 13</p> <p>⑮ Lesson 14</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用し、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。		
評価方法	授業参加状況（課題提出を含む場合がある）40%、定期試験60%		
履修条件			
教科書	異文化理解と国際ビジネス Global Understanding Success in International Business（成美堂）		
参考書			

科目名	英語Ⅱ（健康Aクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、たくさん英語を見たり聞いたり読んだりすることで、リーディングやリスニング力を伸ばし、更に意見を発表する総合的な英語力をつけることである。映画という生きた英語の素材を使ってより高度な英文読解力および英文聴解力を養成する。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ボキャブラリーの拡充をもち、総合的な英語力を身につけることで、大学での学びに必要な英語力を取得することを目指す。		
授業概要	<p>実際にアメリカで起きた事件をもとに製作された映画のDVD教材を使用し、アメリカ社会に対する理解を深めさらに自国についても再認識する。授業計画に示した各ユニットにおいて映画を視聴しながらリスニング力、リーディング力を伸ばすとともに、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。また音読やシャドーイングにも力を入れる。重要な箇所、難解な箇所を理解し、状況に合った正しい理解ができるような読解力を身につけるために内容把握に関する練習問題に取り組む。【SDG s : 3, 4, 6, 11, 12】</p>		
授業計画	<p>① Introduction : Unit 1</p> <p>② Unit 2 : Job Hunting (Reading)</p> <p>③ Unit 3 : Jog Hunting (Audio-Visual Learning)</p> <p>④ Unit 4 : Discovery (Reading)</p> <p>⑤ Unit 5 : Discovery (Audio-Visual Learning)</p> <p>⑥ Unit 6 : Getting Ready for the Suit (Reading)</p> <p>⑦ Unit 7 : Getting Read for the Suit (Audio-Visual Learning)</p> <p>⑧ Review</p> <p>⑨ Unit 8 : Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading)</p> <p>⑩ Unit 9 : Four-Hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning)</p> <p>⑪ Unit 10 : Binding Arbitration (Reading)</p> <p>⑫ Unit 11 : Binding Arbitration (Audio-Visual Learning)</p> <p>⑬ Unit 12 : Settlement (Reading)</p> <p>⑭ Unit 13 : Settlement (Audio-Visual Learning)</p> <p>⑮ Unit 14 : The Real Erin (Extra reading)</p> <p>⑯ 期末試験</p>		
予復習等	【予習】 テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、Vocabularyの問題を解いてくる。 【復習】 試験対策として、教材の復習。音読とシャドーイング。		
評価方法	平常点（授業参加度、貢献度、小テスト、その他）50%、定期試験 50%		
履修条件	なし。		
教科書	『English on Screen: Learning real English through Erin Brockovich』金星堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ（健康Bクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、たくさん英語を見たり聞いたり読んだりすることで、リーディングやリスニング力を伸ばし、更に意見を発表する総合的な英語力をつけることである。映画という生きた英語の素材を使ってより高度な英文読解力および英文聴解力を養成する。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに、ボキャブラリーの拡充をもち、総合的な英語力を身につけることで、大学での学びに必要な英語力を取得することを目指す。		
授業概要	実際にアメリカで起きた事件をもとに製作された映画のDVD教材を使用し、アメリカ社会に対する理解を深めさらに自国についても再認識する。授業計画に示した各ユニットにおいて映画を視聴しながらリスニング力、リーディング力を伸ばすとともに、会話演習を通して実践的な表現力を学ぶ。また音読やシャドーイングにも力を入れる。重要な箇所、難解な箇所を理解し、状況に合った正しい理解ができるような読解力を身につけるために内容把握に関する練習問題に取り組む。【SDGs : 3, 4, 6, 11, 12】		
授業計画	① Introduction : Unit 1 ② Unit 2 : Job Hunting (Reading) ③ Unit 3 : Jog Hunting (Audio-Visual Learning) ④ Unit 4 : Discovery (Reading) ⑤ Unit 5 : Discovery (Audio-Visual Learning) ⑥ Unit 6 : Getting Ready for the Suit (Reading) ⑦ Unit 7 : Getting Read for the Suit (Audio-Visual Learning) ⑧ Review ⑨ Unit 8 : Four-hundred-or-so Plaintiffs (Reading) ⑩ Unit 9 : Four-Hundred-or-so Plaintiffs (Audio-Visual Learning) ⑪ Unit 10 : Binding Arbitration (Reading) ⑫ Unit 11 : Binding Arbitration (Audio-Visual Learning) ⑬ Unit 12 : Settlement (Reading) ⑭ Unit 13 : Settlement (Audio-Visual Learning) ⑮ Unit 14 : The Real Erin (Extra reading) ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】テキストの該当箇所を読み込み、内容を把握し、Vocabularyの問題を解いてくる。 【復習】試験対策として、教材の復習。音読とシャドーイング。		
評価方法	平常点（授業参加度、貢献度、小テスト、その他）50%、定期試験 50%		
履修条件	なし。		
教科書	『English on Screen: Learning real English through Erin Brockovich』金星堂		
参考書	授業内で指示する。		

科目名	英語Ⅱ（デザインAクラス） English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年後期）	科目区分	演習
担当者	尾野 理音	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	本授業では、総合的な英語運用能力の向上を目的とする。特に、基礎的な文法事項の定着と、英文読解を通じた語彙力の拡充を目指す。そのために、英語の基本的な思考や文の仕組みを学び、英文の読解を繰り返す行う。		
授業概要	Grammar Section と Reading Section に別れた教材を使用し、授業の各回で文法事項を学習した上で、英文読解を行う。文法学習では、新たに学習する内容の解説を聞いたあと、問題で確認を行う。英文読解では、新出の重要な語彙に注意しながら様々な英語に触れる。また、リスニングにとって重要な現象を各授業の最後に扱う。全体を通して、総合的な英語運用にとって重要な能力の向上を目指す。 【SDGs : 4, 16, 17】		
授業計画	① ガイダンス ② Grammar Section Unit 1, Reading Section Unit 1, L&S Section Unit 1 ③ Grammar Section Unit 2, Reading Section Unit 2, L&S Section Unit 2 ④ Grammar Section Unit 3, Reading Section Unit 3, L&S Section Unit 3 ⑤ Grammar Section Unit 4, Reading Section Unit 4, L&S Section Unit 4 ⑥ Grammar Section Unit 5, Reading Section Unit 5, L&S Section Unit 5 ⑦ Review (Grammar/Reading/L&R Unit 1-5) ⑧ 中間試験 ⑨ Grammar Section Unit 6, Reading Section Unit 6, L&S Section Unit 6 ⑩ Grammar Section Unit 7, Reading Section Unit 7, L&S Section Unit 7 ⑪ Grammar Section Unit 8, Reading Section Unit 8, L&S Section Unit 8 ⑫ Grammar Section Unit 9, Reading Section Unit 9, L&S Section Unit 9 ⑬ Grammar Section Unit 10, Reading Section Unit 10, L&S Section Unit 10 ⑭ Grammar Section Unit 11-12 ⑮ Review (Grammar Unit 6-12, Reaging/L&R Unit 6-10) ⑯ 期末試験		
予復習等	【予習】指定された箇所を読んでおく。 【復習】授業後に、学習した文法事項や重要語句が定着するように復習する。		
評価方法	平常点(授業態度など)20%、小テスト30%、中間試験25%、期末試験25%		
履修条件	なし		
教科書	『Dear Class - Drop Everything And Read <Second Edition> 楽しい英語の世界へようこそ【改定新版】』/ 著：永本義弘・町田純子・八木茂那子・霜田敦子・Ian E. Ellsworth / 出版：南雲堂		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅱ (テ'サ'インBクラス) English II	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科 (1年後期)	科目区分	演習
担当者	佐竹 直喜	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	大学生レベルの英語学習として、英語の基礎力強化とともに、国際問題・時事問題に関する英語表現・英単語のインプットを行い、世の中で起きていることについて英語で説明できるようになることを目指す。		
授業概要	<p>①英語基礎力強化のための演習を行う。文法、リーディング演習を授業の最初に実施し、英語力の土台強化を行い、自学自習の習慣をつける。</p> <p>②指定のテキスト使い、国際問題・時事問題に関する英語表現・英単語のインプットを行う。</p> <p>世の中で起きていることについて英語で理解し、さらに説明できるようしていく。</p> <p>【SDGs : 8, 9, 10】</p>		
授業計画	<p>① オリエンテーション</p> <p>② Lesson 1</p> <p>③ Lesson 2</p> <p>④ Lesson 3</p> <p>⑤ Lesson 4</p> <p>⑥ Lesson 5</p> <p>⑦ Lesson 6</p> <p>⑧ Lesson 7</p> <p>⑨ Lesson 8</p> <p>⑩ Lesson 9</p> <p>⑪ Lesson 10</p> <p>⑫ Lesson 11</p> <p>⑬ Lesson 12</p> <p>⑭ Lesson 13</p> <p>⑮ Lesson 14</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	各自学習した教材の復習を行い、土台の積み上げをすること。 また、インターネット等を利用し、いろいろな英語題材に触れ、インプットを増やすこと。		
評価方法	授業参加状況 (課題提出を含む場合がある) 40%、定期試験60%		
履修条件			
教科書	異文化理解と国際ビジネス Global Understanding Success in International Business (成美堂)		
参考書			

科目名	英語Ⅲ [国際] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科 (2年前期)	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Students will build on the basic conversation skills learned in the first year. The objective of this course is to further develop language skills and enable students to speak for longer periods in English. This will be achieved through adding to vocabulary learned, improving listening comprehension and giving students opportunities to express themselves in English.		
授業概要	<p>【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】</p> <p>In this course students will have the opportunity to listen to longer recordings. To aid understanding, listening task vocabulary will be pre-taught and the same vocabulary used in speaking activities designed for pair, group and class work.</p> <p>【SDGs : 4】</p>		
授業計画	<p>① Orientation</p> <p>② Unit 1: Memories</p> <p>③ Unit 2: Life changes</p> <p>④ Unit 3 Viewpoints</p> <p>⑤ Unit 4: Problems</p> <p>⑥ Unit 5: Thinking ahead</p> <p>⑦ Unit 6: Imagine!</p> <p>⑧ Speaking assessment 1. Review of Units 1-6.</p> <p>⑨ Unit 7: My World</p> <p>⑩ Unit 8: Past events</p> <p>⑪ Unit 9: Feelings and opinions</p> <p>⑫ Unit 10: What if...?</p> <p>⑬ Unit 11: Work it out</p> <p>⑭ Unit 12: Looking back</p> <p>⑮ Speaking assessment 1. Review of Units 1-6.</p> <p>⑯ 定期試験</p>		
予復習等	<p>【予習】 Weekly vocabulary lists.</p> <p>【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.</p>		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. End of term speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Breakthrough Plus Book 3. Macmillan Education. Miles Craven.		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅲ [健康・デザイン] English III	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康・デザイン（2年前期）	科目区分	演習
担当者	澤田 真須美	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	この授業の到達目標は、日常のコミュニケーションや外国に行く時における様々な場面において頻出する表現を確実に身に付けることである。また、練習問題を加えることで、文法事項も再確認する。さらに語彙やリスニング力の拡充をはかり、総合的な英語力の向上を目指す。大学での学びに必要な総合的英語力を身につける。		
授業概要	授業計画に示されている各ユニットにおいて、重要な語句や会話表現について学習し、リスニング問題に取り組むことで、英語コミュニケーション能力を身につける。さらにテーマに即した英文エッセイを読み、英語の構造及び重要な箇所、難解な箇所の理解をし、文脈にあった正しい理解ができるような読解力を身につける。以上のことを個人およびペアやグループディスカッション、さらにプレゼンテーションを通して行う。 【SDGs:10, 16, 17】		
授業計画	① イントロダクション ② Unit 1 Travel ③ Unit 2 Jobs and People ④ Unit 3 Getting on the plane ⑤ Unit 4 At the Immigration and Customs ⑥ Unit 5 At the Airport ⑦ Unit 6 Hotel ⑧ Unit 7 Restaurant ⑨ Unit 8 Sightseeing ⑩ Unit 9 Shopping ⑪ Unit 10 Transportation ⑫ Unit 11 Problems and Compliments ⑬ Traveling in Japan (1) ⑭ Traveling in Japan (2) ⑮ Traveling in Japan (3) ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 指定されたテキストの授業範囲の予習をすること。 【復習】 授業後に、テキストの会話、聞き取り問題、読解問題を復習すること。		
評価方法	平常点（授業参加度、貢献度、発表、小テスト課題など）50%、定期試験 50%。		
履修条件	学修規程による。（授業の3分の1を越えて欠席した場合は評価の対象とならない）		
教科書	『ENGLISH for Tourism <Basic>』／著：観光英検センター／出版：三修社		
参考書	適宜指示する。		

科目名	英語Ⅳ [国際] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際コミュニケーション学科（2年後期）	科目区分	演習
担当者	杉浦 エレナ	教員区分	非常勤講師
授業目的 到達目標	Students will build on the basic conversation skills learned in the first year. The objective of this course is to further develop language skills and enable students to speak for longer periods in English. This will be achieved through adding to vocabulary learned, improving listening comprehension and giving students opportunities to express themselves in English.		
授業概要	【担当者の実務経験：日本の文化になじみのない英会話教師をサポートしてきた職務経験を活用し、コミュニケーションをとる中で日本と外国の文化的なギャップへの実際の経験に基づく対処法を身につけます。】 In this course students will have the opportunity to listen to longer recordings. To aid understanding, listening task vocabulary will be pre- taught and the same vocabulary used in speaking activities designed for pair, group and class work. 【SDGs : 4】		
授業計画	① Orientation ② Unit 1: Success ③ Unit 2: Difficult decisions ④ Unit 3: Keeping busy ⑤ Unit 4: He said what? ⑥ Unit 5: Changes ⑦ Unit 6: You can't do that! ⑧ Speaking Assessment 1. Review Units 1-6. ⑨ Unit 7: Influences ⑩ Unit 8: If I hadn't ⑪ Unit 9: Past regrets ⑫ Unit 10: Looking ahead ⑬ Unit 11: It's a hard life ⑭ Unit 12: Women and men ⑮ Speaking Assessment 2. Review all units. ⑯ 定期試験		
予復習等	【予習】 Weekly vocabulary lists. 【復習】 Mid term and end of term speaking assessments.		
評価方法	Week 8 speaking assessment 1, 20%. End of term speaking assessment 2, 20%. Participation, 10%. End of term examination, 50%.		
履修条件	なし		
教科書	Breakthrough Plus Book 4. Macmillan Education. Miles Craven.		
参考書	なし		

科目名	英語Ⅳ [健康・デザイン] English IV	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	健康・デザイン（2年後期）	科目区分	演習
担当者	藤田 怜史	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>この授業は、環境やエネルギー、資源やフェイクニュースなど、世界を取り巻く諸問題に関するやや長めのテキストを講読することで、英文読解力とグローバルな問題への理解力を高めます。具体的な統一目標は以下のとおり。</p> <p>1：受講生は、英語長文の講読をとおして、英文の読解力を向上させることができる。</p> <p>2：受講生は、グローバルな諸問題への知識と関心を増やすことができる。</p> <p>3：受講生は、さまざまな問題に対する意見を述べるることができる。</p>		
授業概要	<p>この授業では、環境やエネルギー問題、自然資源、フェイクニュース、観光の活性化に伴う問題など、日本だけでなく世界のさまざまな国が直面する諸問題について書かれた、やや長めのテキスト（1000words前後）を講読する。英文を丁寧に読み進めることで、英文の構造や内容に対する理解を深めることが、この授業の目的である。また、世界が直面するさまざまな問題に対する関心と理解を深め、それに対する意見や解決策などを提示してもらう。※教科書が変更になる可能性があるが、授業の進め方や扱う教科書の難易度、分量に大きな違いはない。</p> <p>【SDGs：4, 5, 7, 8, 10, 12, 13】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① Guidance (self-introduction, etc) ② Unit 1 ③ Unit 2 ④ Unit 3 ⑤ Unit 4 ⑥ mid-term report, presentation 1 ⑦ unit 5 ⑧ unit 6 ⑨ unit 7 ⑩ unit 8 ⑪ mid-term report, presentation 2 ⑫ unit 9 ⑬ unit 10 ⑭ unit 11 ⑮ unit 12 ⑯ 定期試験（ないしレポート） 		
予復習等	<p>予習：指定されたテキストに事前に目を通し、単語などを調べておく。内容についても確認し、わかりにくかったところなどを整理しておく。</p> <p>復習：重要な単語やフレーズをまとめる。テキストの内容のサマリーをつくる。</p>		
評価方法	出席状況・授業態度（30%）、課題（30%）、定期試験（40%）		
履修条件	なし。		
教科書	『Issues That Matter』／著：David Peartyほか／金星堂		
参考書	なし。資料を配布する。		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	国際コミュニケーション学科（1年前期） [岐阜学関連科目]	科目区分	演習
担当者	各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	<p>本講義は、まず、大学生活をスタートさせるにあたり、主体的な学修に必要な学びの技術と表現を身につける（①から④と⑨、⑩）。</p> <p>その後、国際コミュニケーション学科の各教員によるオムニバス形式で実施する（⑤から⑧、⑪から⑮）。本講義の目標は、受講生が日本を含む世界の様々な地域、または学科教員のさまざまな研究分野に広く関心を持つこと、今後どのような学びを修めたいかのヒントを得、領域選択やゼミ選択に活かすことである。</p>		
授業概要	<p>本講義は、まず演習形式でアカデミックスキルを身につけ、学外研修として岐阜市内見学を行い、グループ発表を行う（①から④と⑨、⑩）。また、国際コミュニケーション学科所属の教員が、それぞれの専門に関する地域や研究分野に関する導入的な議論を行い、受講生が今後どのような学びを修めたいかについて、ヒントを提供するものである（⑤から⑧、⑪から⑮）。この講義を通じて、受講生は、大学生活に必要な学びの技術を獲得することに加え、異文化への理解力と共感力を身につけると同時に、日本や自分たちが住んでいる地域に対する関心を改めて深めるきっかけを得てほしい。</p> <p>【SDGs：1,4,5,10,11,16,17】</p> <p>【岐阜学関連の授業回：⑨】</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業ガイダンス・自己紹介・学外研修についての説明 ② 図書館ガイダンス ③ 大学生の調べ方・資料の読み方 ④ 大学でのノートの取り方・レポートの書き方 ⑤ 国際コミュニケーション学科への導入と比較文化：宗教文化（川上新二） ⑥ 日本のことばの創造性と魅力（村中菜摘） ⑦ ことばの科学とコミュニケーション（大澤聡子） ⑧ 英語学習の方法について理解を深めること（佐竹直喜） ⑨ 学外研修（市内見学・鶴飼見学）の発表(1) ⑩ 学外研修（市内見学・鶴飼見学）の発表(2) ⑪ 外国語を学ぶことの楽しさについて（孫ミギョン） ⑫ Z世代における日中間の相違について（王張璋） ⑬ Cross-cultural Communication Breakdowns: Causes and Solutions（Cotten, Randall） ⑭ 外国（アメリカ）の歴史を学ぶということ（藤田怜史） ⑮ 情報技術が社会に及ぼす影響（長谷川旭） 		
予復習等	<p>予習：関心のある国際ニュースに触れておく。</p> <p>復習：各授業に関するメモを整理し、まとめておく。</p> <p>関心を持った用語や出来事、ニュースに関する調査を行う。</p>		
評価方法	<small>授業態度・出席状況(25%)：⑤から⑧、⑪から⑮の授業の各回に出される課題を提出する。課題に対して各回に採点(10点満点)し、その合計を25点換算する。各回の採点基準は授業ごとに提示する。</small> <small>学外研修発表(25%)：採点基準は担当教員が提示する。</small> <small>期末レポート(50%)：最も関心を持った授業・テーマに関するレポートを執筆する。レポートのテーマや分量については、各担当教員が指示する。</small>		
履修条件	なし		
教科書	なし		
参考書	なし、適宜紹介する。		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	健康栄養学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	小野 廣紀・松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	教養演習を通して、大学における学びの技法を修得する。また、少人数のグループ学習の中で、将来、栄養士を目指して、「大学で何を学ぶべきか?」「社会でどのように立ちたいか?」「そのための必要な学び・スキルとは何か?」について、自ら考え、目標が立てられるようになる。すなわち、高校生までの受け身の学修姿勢から自発的な学修姿勢への変換を目指す。		
授業概要	大学生として身につけるべき基礎的技能を習得する。具体的には、ノートの取り方、講義の受け方、情報収集（文献・資料の検索方法）、スライドを使ったプレゼンテーションの基礎、レポートの作成方法などを10名程度のグループ学習の中で学ぶ。また、グループワークの中で、コミュニケーション能力や総合的な判断力の養成を行う。健康栄養学科では、特に「食」を学ぶ意義や「食」に係わる者の倫理に重点を置いた取り上げ方をする。 【SDGs : 3, 4】		
授業計画	① オリエンテーション ② 学生の学習技術：ノートの取り方、講義の受け方 ③ 学生の学習技術：予習・復習、図書館の使い方 ④ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(1) ⑤ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(2) ⑥ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(3) ⑦ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(4) ⑧ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(5) ⑨ 演習Ⅰ：口頭発表のしかた(6) ⑩ 演習Ⅰ：口頭発表 ⑪ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(1) ⑫ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(2) ⑬ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(3) ⑭ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(4) ⑮ 演習Ⅱ：レポート・論文の書き方(5) ⑯ レポート・論文提出		
予復習等	【予習】 テキストの該当部分を読んでおく。 【復習】 配布資料がある場合、再読し、理解する。		
評価方法	出席状況25%、授業態度25%、発表25%、レポート・論文など提出物25%		
履修条件	なし		
教科書	『栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック』 著：西川真理子／出版：化学同人		
参考書	各担当教員がテーマに応じて適宜紹介する。		

科目名	教養演習 Academic Skills	単位数	1
		必選区分	必修
開講学科	デザイン環境学科（1年前期）	科目区分	演習
担当者	各教員	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	大学での学習・生活は、高校までのそれとは大きく異なる。勉学は自発的にするものであり、生活面では権利と義務が伴う。本講義では、大学生生活の出だしを自信とやる気を持ってスムーズに進められるよう、大学生としての基本姿勢・自ら学ぶ学習技術を会得することを目的とする。まず大学とは何かを理解するとともに本学の設立趣旨・本学科の教育目標と本学施設の活用方法を学ぶ。次いで、大学生の学習技術として、ノートをとる力・読む力・調べる力・まとめる力・伝える力などを習得することを目標とする。		
授業概要	テキストに添って、「講義ノートをとる力」、「テキストを読む力」、「文献を調べる力」、「レポートを書く力」、「レポートをまとめる力」の順に進めていく。大学の講義においては、レポート課題が多く出されることから、「レポートを書く力」を習得することが特に重要となる。また、その事前の準備として文献調査が必ず必要となり、図書館の利用方法も理解し十分に活用してもらいたい。なお、各講義においては、パワーポイントを用いて、簡潔に理解できるよう工夫している。 【SDGs : 4】		
授業計画	① 大学とは何か・本学の設立趣旨と本学科の教育目標 ② 講義ノートをとる力の習得 ③ テキストを読む力の習得 ④ 文献を調べる力の習得 ⑤ レポートを書く力の習得 ⑥ レポートをまとめる力の習得 ⑦ 成果を伝える力の習得 ⑧ 学外研修 ⑨ 学外研修 ⑩ 学外研修 ⑪ 学外研修 ⑫ 特別講義（1回目） ⑬ 特別講義（2回目） ⑭ 卒業研究中間発表会 ⑮ 卒業研究中間発表会		
予復習等	【予習】 教科書をあらかじめ見ておくこと。 【復習】 学んだことを他の講義等で実行すること。		
評価方法	出席状況・授業態度40%、レポート等提出物60%		
履修条件	学外研修参加（レポート提出）、特別講義参加、卒業研究中間発表会参加		
教科書	くろしお出版 学習技術研究会編著 「知へのステップ 第5版」		
参考書	なし		

科目名	異文化理解と社会の変化 Intercultural Understanding and Social Shift	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（1年後期）【GDSC科目】	科目区分	講義
担当者	松浦 康之・長谷川 旭・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	異文化とは国際だけではなく、文化や言語、地域差といった様々な背景の違いを指している。生成AI（人工知能）など時代の変化が激しい現代において、社会も多様化・複雑化している。そのため、異文化を学んだり、視野を広げたり、他者の視点に立脚して考えることは重要となる。そこで、本講義では、文化や価値観の違いに触れながら、これからの時代に必要とされる人材やグローバル化について考えていく。これによって、視野を広げることと異文化に対する理解を持つことを目標とする。		
授業概要	現代社会において、全員が同じ発想と内容を持つことは様々な変化に対する脆弱性が高くなると言える。また、これからの時代、従来の延長線や一つの専門領域だけで、社会課題の解決や新しい価値の創造は困難であるとも言える。本講義では、多様な価値を理解し、多様な対応ができることを目指している。そのため、本講義では知識を学ぶだけではなく、共に考えることによって、様々な背景や価値観を持つ重要性や多面的な視野を養う。また、実例なども取り上げながら、多様性の理解やその必要性について学ぶ。本講義はグローバル人材海外演習（隔年開講）の予習の要素も含むが、内容は独立しており、グローバル人材海外演習に参加しない学生も履修可能である。なお、本講義は集中講義（不定期開講）であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。 【SDGs：4, 9, 16】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス・異文化理解とは ② タイの基礎知識 ③ 日本との違いや難しさ ④ 異文化理解を考える（1）事例紹介（国境、戦争、分断など） ⑤ 異文化理解を考える（2）事例紹介（異文化、見知らぬ国々など） ⑥ 異文化理解と社会の変化を改めて知る・考える ⑦ 異文化理解を考える（3）プレゼン ⑧ まとめ 		
予復習等	【予習】 ニュースに関心を持ち、未知のキーワードや内容を調べる。 【復習】 講義で取り扱った話題について自分で調べ、質疑応答や発表の準備をする。		
評価方法	授業態度30%、レポート40%、プレゼン30%		
履修条件	なし。ただし、1年前期に開講される「グローバル化論」（国際コミュニケーション学科、他学科専門科目）を受講していることが望ましい。		
教科書	なし。		
参考書	必要に応じてプリントを配布する。		

科目名	クリティカル・シンキング Critical Thinking	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）【GDSC科目】	科目区分	講義
担当者	長谷川 旭・松浦 康之・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	現代において、気候変動の問題やCOVID-19の問題など、特定の国・地域だけでは対応することが難しい複合的な課題に直面している。人工知能（AI）においても、国際的な競争のみならず、そのリスクに関して、国際的なルール作りも議論されている。こうした状況において、これまで以上に異なる分野や国際間の相互理解が求められている。そこで、本講義では、広い視野から学問に対する興味・関心を喚起するとともに、その関連性・横断性を学ぶことで、柔軟な思考力と洞察力を兼ね備えるための素養を涵養する。		
授業概要	この授業は、講義、ディベートやディスカッション、発表などを通じて実践的な学びを提供します。グローバル社会において必要とされるスキルや知識、特にグローバル人材としての役割や能力を理解し、問題解決するために必要な要素について学ぶ。 【SDGs：4, 9】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① クリティカル・シンキングの前提知識 ② 異文化間能力について改めて考える。 ③ 国際的な課題、これからの時代を考える ④ 問題解決・議論の手法 ⑤ グローバル人材に必要とされる知識や能力(1)（講義） ⑥ グローバル人材に必要とされる知識や能力(2)（議論） ⑦ グローバル人材に必要とされる知識や能力(3)（発表） ⑧ まとめ 		
予復習等	【予習】 グローバル人材に関連するニュースなどについて、興味をもって主体的に情報収集しておくこと 【復習】 授業内容を振り返り、要点を整理すること。		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし。 ※ただし、1年後期に開講される「異文化理解と社会の変化」を受講していることが望ましい。		
教科書	なし、授業内で資料配布を行う。		
参考書	なし。		

科目名	地域データ分析 Introduction to Regional Data Analysis	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年前期）【GDSC科目】	科目区分	講義
担当者	神谷 勇毅・長谷川 旭・松浦 康之	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	「地域課題」と聞くと、ある地域が抱える何かしらの課題だろうというイメージを持つと思う。課題としたものは、果たして本当に課題なのか。漠然と見る課題もあれば、エビデンスに基づき提示できる課題もあるだろう。本授業では、データ入手から、データ分析、データの裏を語る地域課題について取り扱う。様々な地域において公的なデータを基にした地域理解、地域分析に及ぶ考え方を学ぶ。		
授業概要	<p>本授業では、地域課題を裏付ける公表データ、地域発見に繋がる公表データの検索、入手したデータの分析と発表、他者の発表を聞いての学び、質疑などの活動を通じ、課題発見、課題解決に結びつく提案力を身につける。</p> <p>【SDGs：4】 【岐阜学関連の授業回：①, ②, ③, ④, ⑤, ⑥, ⑦, ⑧】</p>		
授業計画	<p>① イントロダクション 「地域課題」を知る</p> <p>② 地域資料の入手、資料は1つか複数か？</p> <p>③ 入手資料から一何を見るか？何を見たいか？</p> <p>④ 地域資料からの分析と発表準備</p> <p>⑤ 分析開示（発表） 発表を基とした議論</p> <p>⑥ 分析の振り返りーデータ再分析 見たものは「適当」であったか？</p> <p>⑦ 再分析と最終発表準備</p> <p>⑧ 最終報告</p>		
予復習等	<p>【予習】 地域課題へ関心に向ける</p> <p>【復習】 日常生活で目にする様々と地域課題とを結びつけ考察する</p>		
評価方法	初回の授業で各担当教員が提示する。		
履修条件	なし		
教科書	なし 必要に応じて授業内で資料を配布する		
参考書	なし		

科目名	人間知能と人工知能 Human Intelligence and Artificial Intelligence	単位数	1
		必選区分	選択
開講学科	国際・健康・デザイン（2年後期）【GDSC科目】	科目区分	講義
担当者	松浦 康之・長谷川 旭・神谷 勇毅	教員区分	学内教員
授業目的 到達目標	人工知能(AI)によって、人間社会が大きく変化していく時代になった。そこで、AIと人間が組み合わせさせた社会を豊かにするためにはどのようにしていったら良いか？その一つとして、AIと人間の脳の特徴を整理して探ることではないか？その中で、「知能」や「意識」といったAIや人間について考える。そして、これから来るであろう次の時代、拡張知能や脳とAIの融合といった将来のことを国内外の動きなどを見ながら、考えていく。これによって、多面的な視野を養うとともに、その関連性・横断性を学ぶことで、柔軟な思考力と洞察力を兼ね備えるための素養を涵養する。		
授業概要	<p>本授業では、教員による講義だけでなく、グループワークを通して、「知能」や「意識」について思考する。現代社会では、地域社会が直面する問題に対してデータ駆動型のアプローチが重要となっている。本授業では、データ収集から可視化、解析、そして結果の提案に至るまでの全てのステップにおいてグループワークを通じた実践を重視し、学生のチームワークと問題解決力を養う。なお、本講義は集中講義であるため、授業計画であげた項目の順序や内容の一部が変更になる場合もある。</p> <p>【SDGs：4, 9, 16】</p>		
授業計画	<p>① 「知能とは何か？」（1）事前学習</p> <p>② 「知能とは何か？」（2）ディスカッション</p> <p>③ 「知能とは何か？」（3）発表、まとめ</p> <p>④ 「意識とは何か？」（1）事前学習</p> <p>⑤ 「意識とは何か？」（2）ディスカッション、発表準備</p> <p>⑥ 「意識とは何か？」（3）発表、まとめ</p> <p>⑦ 人間知能と人工知能の違いは？</p> <p>⑧ プレゼン、まとめ</p>		
予復習等	<p>【予習】 AIやデータサイエンスの概念について「データサイエンス概論」や「情報・統計処理」で学んだことを復習しておくこと。</p> <p>【復習】 他の発表を聞いたことや気づいたことについて自分なりに調べたり、発表準備を行う。</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとのディスカッションの成果物とその発表 40% ・プレゼン 20% ・レポート 40% 		
履修条件	なし		
教科書	必要に応じてプリントを配布する		
参考書	なし		